

農業技術センター普及指導部作物関係情報

タイトル：水稻の初期生育状況（6月25日現在）について

発信日：2020年6月30日

1 内容

平年値(2010～2019年までの過去10年平均)と比べ、6月25日現在の水稻の生育状況は以下の表1のとおりです。

表1 水稻の生育状況(6月25日現在)

品種	移植時期	草丈	茎数	葉色
はるみ*	6月上旬	やや長い	同等	同等
キヌヒカリ	6月上旬	やや長い	同等	同等
さとじまん	6月上旬	同等	少ない	同等

*2014～2019年までの過去6年平均との対比

2 留意事項

今後の水稻の作業については、次の点に留意して実施して下さい。

(1) 気象

気象庁が6月25日に発表した1か月予報は、気温は「高い」、降水量は「ほぼ平年並」、日照時間は「ほぼ平年並」となっています。

(2) 水管理

苗が活着してからは、中干しまで分げつを促進するために浅水（概ね2～3cm）で管理を行います。

(3) 中干し

中干しは、過剰分げつの抑制と田面を固め倒伏を予防するために実施します。最高分げつ期ごろから5～7日程度水を切り、土壌表面に軽いひび割れができる程度に干します。

(4) 雑草防除

県内全域で藻類の発生が目立っています。藻類が多発すると、地温の低下等により水稻の生育が抑制されることがあるので、一時的に水を落としたり、藻類に登録がある除草剤（モゲトン粒剤）を施用します。

ノビエ、ホタルイ、コナギ、オモダカ、クログワイ、クサネムが残草した場合、中期剤・後期剤を施用します。

中期剤：ワイドショット1キロ粒剤、ワイドアタックD1キロ粒剤、ワイドアタックSC、ヒエクリーン1キロ粒剤（ノビエのみ）等

後期剤：バサグラン粒剤・液剤（ノビエは除く）、クリンチャーバスME液剤 等



コナギ



オモダカ



クログワイ



ノビエ



ホタルイ



クサネム

(5) 病虫害防除

病虫害の発生源となる余り苗は水田に放置せず早急に除去しましょう。水田周辺雑草についても除草管理を徹底しましょう。

・スクミリンゴガイ（ジャンボタニシ）

スクミリンゴガイの発生地域が拡大しています。スクミリンゴガイのは場内への侵入を防ぐため、水口と水尻には6～9mm目合いの網を設置しましょう。また、スクミリンゴガイの密度を減らすために、水田や水路に貝を発見したら捕殺し、ピンク色の卵（卵塊）は潰しましょう。



スクミリンゴガイ

スクミリンゴガイの卵塊

・縞葉枯病

本年度の縞葉枯病の発生は、平年比で「やや多」予想です。（病虫害情報（第3号）6月予報 参照）。作期を通して縞葉枯病に感染するイネ科雑草やウンカ類の生息場所となり得る水田周辺雑草の除草を徹底してください。

表2 農業技術センター（平塚市）での過去10年平均値

作期	品種名	中干し時期	穂ばらみ期	出穂期
5月27日植	キヌヒカリ	7月7日頃	7月22日～8月6日頃	8月6日*
	さとじまん	7月14日頃	7月29日～8月13日頃	8月13日*
6月7日植	はるみ	7月11日頃	7月26日～8月10日頃	8月10日
	キヌヒカリ	7月10日頃	7月25日～8月9日頃	8月9日
	さとじまん	7月17日頃	8月1日～8月16日頃	8月16日
6月17日植	はるみ	7月17日頃	8月1日～8月16日頃	8月16日**
	キヌヒカリ	7月16日頃	7月31日～8月15日頃	8月15日
	さとじまん	7月21日頃	8月5日～8月20日頃	8月20日

- ・ 穂ばらみ期は、出穂期約15日前～出穂期までの期間。水稻が最も水分を必要とする時期なので、水田の水位を十分に保つようにする。
- ・ * ; 5月下旬植については、2002～2006年（5年平均）のデータに基づく。
- ・ ** ; 6月中旬植えのはるみについては、2010～2012、2015～2019年（8年平均）のデータに基づく。

問合せ先
 農業技術センター普及指導部作物加工課
 平塚市上吉沢1617
 TEL : 0463-58-0333 内線381～384
 FAX : 0463-58-4254